

26年度鶴見区運営方針自己評価シート

1 自己評価結果の総括

(1) 1年間の取組成果と今後取り組みたいこと

地域社会全体で支え合うまちづくりに向けて、区民のさまざまなニーズや信頼に応え暮らしを支えるとともに、区民による自主的な地域運営を支援し、区民協働によるさまざまな取組を進めた結果、具体的取組の業績目標については概ね達成できたと認識している。

地域コミュニティの活性化については、各地域活動協議会において、自己資金の拡大に向け、広告収入の獲得やコミュニティビジネスの導入等、各地域の実情に合わせた自律的な活動が実施されている。今後も地域活動の担い手の育成や参画者の拡大が図られるよう、中間支援組織と連携しながら引き続き支援していく。

区のブランド価値向上については、「鶴見区制 40 周年記念音楽祭」をはじめ、鶴見緑地を活用した「農事体験プロジェクト」や「光の花栈敷」「季節の草花散策ウォーク」などを実施し、多くの区民に参加いただいた。

情報発信機能の強化については、今年度、広報紙の頁数を増やし、紙面変更を行ったうえで、全戸配布を実施した結果、アンケートで「区役所で実施している広報で必要とする情報が入手できている」とした区民の割合が飛躍的に上昇した。今後は、若い世代にも興味・関心を持ってもらえるような広報紙の紙面づくりに加え、HP、フェイスブック等さまざまな媒体をかけ合わせ、広報の量、質ともに高めていく。

地域保健・福祉については今年度、地域保健福祉ビジョンを策定することができた。今後、ビジョンに基づいた福祉活動を区社協や地域と連携・協働しながら進めていく。

(2) 解決すべき課題と今後の改善方向

依然として、児童虐待に関する相談件数や支援の必要なケースが多く、保育所入所を待っている方も多いなど保育ニーズが高い状況であることから、今後も引き続き、関係機関と連携・協力し、子育て支援や児童虐待防止に取り組んでいく必要がある。

また、窓口業務の格付け調査において、今年度も星を獲得することができなかったため、区役所全体で切磋琢磨、業務改善に努め、区民サービスの向上を図っていく。

今後も、鶴見区に住んでよかったと実感していただけるよう、地域とも連携・協働しながら様々な取組を進めていく。